

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」「基礎的・基本的知識技術の習得」「自己責任を考える」「寮生会活動の活性化」「進路支援」の5つの重点項目を掲げて学校アクションプランを設定した。

「学習活動」では、躍進賞の受賞者は昨年比で減ったが、優秀賞を獲得した生徒は増えた。全体として、自学自習ノート等を利用し、目標をもって学習に取り組む生徒は増えている。また、タブレットを用いた授業では、ICT支援員と連携して、タブレット内のアプリを活用した授業作りをする様子が見られ、またその互見授業に参加する教員も、前年度に比べ僅かに増え、教科指導の向上につなげていることから評価は「B：ほぼ達成」とした。

「基礎的・基本的知識技術の習得」では、日本農業技術検定の成績がすべての学年で高くなったが、1・3学年が達成目標をクリアすることができなかったことから評価は「C：現状維持」とした。

「自己責任を考える」では、時間を守る意識の向上は高まった。また、あいさつ運動は、概ね継続的かつ自発的に行われてことから評価は「B：ほぼ達成した」とした。

「寮生会活動の活性化」では、役員会および集い・集会は、目標通り取り組むことができたが、生徒役員が自発的に開催する雰囲気づくりや、自治組織である寮生会が、自ら寮風を高めていこうとする意識づけが課題であることから評価は「B：ほぼ達成した」とした。

「進路支援」では、数値目標を達成することができた。なお就職については20名中の19名が最初の応募選考で内定を得ることができた。進学については、国公立大学をはじめとする農業系学部への進学者が増加したことから評価を「A：達成した」とした。

7 次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からは、アクションプランを含め、学校教育目標に向かう本校の学校行事や研究等の取り組みが報道機関を通じて数多く取り上げられていることや「農業をやりたい」という気持ちで入学してきた生徒は少ないが、約半数の生徒が農業関係に進学・就職していることも高く評価を受けた。また最近、米価の高騰等により農業に関する内容がメディアで取り上げられるようになってきたことから、今、子どもたちに農業に目を向かせるチャンスであり、中央農業の取り組みをさらにPRし、一人でも多くの中学生に興味関心を持たせてほしいという意見をいただいた。

今後も多様な生徒一人一人に応じた指導のPDCAサイクルを実践しながら、農業教育の活性化と充実発展、担い手の輩出、地域社会の持続的な発展に貢献できる職業人の育成という本校の使命を果たすため、教育活動の一層の充実を図ってまいりたい。